

2025（令和7）年 9月号

赤れんが博物館NEWS

発行：舞鶴市立赤れんが博物館



小企画展

戦後80 年小企画展

「記憶を刻む赤れんが：戦後80 年と旧軍施設の変遷」

2025年8月15日、私たちは終戦から80年という大きな節目を迎えました。赤れんが博物館では、かつて軍事拠点として重要な役割を担い、戦火をくぐり抜けて今もなお活用されている旧軍施設のれんが建造物に焦点を当てます。堅牢な赤れんがが織りなすその姿は、激動の時代を生き抜いた証であり、戦後の復興、そして平和利用へと姿を変えてきた日本の歩みを雄弁に物語っています。

私たちは、この赤れんがの建造物を通して、当時の人々の暮らしや思いに触れ、未来へつなぐ平和の尊さを改めて考えるきっかけを提供したいと願っています。

- ・会 期 令和7年8月2日(土)～9月23日(火・祝)
- ・展示内容 れんが10点

9/20(土)11:00～ギャラリートーク開催します

小企画展展示れんがリスト（展示順）

旧名称 現名称	竣工年 所在地
旧 海軍兵学校生徒館 現 海上自衛隊幹部候補生学校庁舎	竣工：1893(明治26)年 所在地：広島県江田島市
旧 呉鎮守府庁舎(2代目) 現 海上自衛隊呉地方総監部 第1庁舎	竣工：1907(明治40)年 所在地：広島県呉市
旧 海軍大湊通信隊稚内分遣隊 幕別送信所 現 旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊 幕別送信所C棟	竣工：1931(昭和6)年頃 所在地：北海道稚内市
旧 近衛師団司令部庁舎 現 旧近衛師団司令部庁舎	竣工：1910(明治43)年 所在地：東京都千代田区
旧 第16師団司令部庁舎 現 聖母女学院法人本館	竣工：1908(明治41)年 所在地：京都市
旧 金沢陸軍兵器支廠 第五、六、七号兵器庫 現 石川県立歴史博物館 第1、2、3棟	竣工：1909(明治42)年 第六号(第2棟) 竣工：1913(大正2)年 第七号(第1棟) 竣工：1914(大正3)年 所在地：石川県金沢市
旧 広島陸軍兵器支廠第11兵器庫 現 広島大学医学部医学資料館	竣工：1915(大正4)年 1999(平成11)年移転 所在地：広島市
旧 東京湾要塞猿島砲台 現 猿島公園(猿島砲台跡)	竣工：1884(明治17)年 所在地：神奈川県横須賀市
旧 由良要塞友ヶ島第2砲台 現 友ヶ島第2砲台跡	竣工：1898(明治31)年 所在地：和歌山市
旧 東京湾要塞第2海堡 現 第2海堡	竣工：1914(大正3)年 所在地：千葉県富津市



←「手前右」旧海軍兵学校生徒館、(「左」)旧呉鎮守府庁舎(2代目)、「奥」旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所

→「右」旧近衛師団司令部庁舎、(「左」)旧第16師団司令部庁舎



←「右」旧金沢陸軍兵器支廠兵器庫、(「左」)旧広島陸軍兵器支廠兵器庫



↑「右」旧東京湾要塞猿島砲台、〔中〕旧由良要塞友ヶ島第2砲台、〔左〕旧東京湾要塞第2海堡



講師

水野 信太郎さん

舞鶴市立赤れんが博物館 顧問
北翔大学名誉教授 工学博士

日本の近代化とれんが⑤ 鉄道とれんが

9/20(土)14時 博物館2階

参加無料

赤れんが博物館では、れんがの歴史を市民の皆さんと学ぶ「市民講座」を開講しています。令和7年度の市民講座は、昨年度に引き続き「日本の近代化とれんが」をテーマにシリーズでお届けしています。第2回は、10月14日（旧暦明治5年9月12日）の「鉄道の日」にちなみ、「鉄道とれんが」について水野信太郎先生にお話しいただきます。ぜひご参加ください！！

今月のれんが

森永製菓株式会社中京工場 トンネルオーブン 耐火れんが



赤れんが博物館では、赤れんがのような建築用れんがとともに、高い耐熱性を持つ「耐火れんが」を紹介しています。かつて幕末期の「反射炉」や蒸気機関車の罐、暖炉、ボイラー室などに使用された耐火れんがは、現代ではごみ処理施設の焼却炉、製鉄所の高炉などに使用され日常生活を支えています。

私たちの食生活に係わる耐火れんがもあります。ベルトにのせたパンや焼き菓子の生地を、長いトンネル状の炉の中をゆっくり移動させて焼き上げるトンネルオーブンの天井面に使用されていた左写真の耐火れんがは、森永製菓株式会社中京工場からご寄贈いただきました。中京工場では、ご存知「おっとっと」や「パッくんチョコ」が製造されています。

←森永製菓(株)中京工場トンネルオーブン耐火れんがの展示

●森永製菓の創業者と舞鶴・・・

東郷平八郎が好んだと伝わる栗饅頭を商う和菓子店「勇貫堂」。その店内には、森永製菓の創業者である森永太一郎氏より寄贈された「終始一貫」の書が掲げられています。森永製菓と舞鶴の縁を物語る書です。



森永製菓の創業者、森永太一郎氏は慶応元年（1865年）の生まれ。明治21年に渡米して洋菓子の製造技術を習得し、明治32年に帰国すると、日本でいち早く近代的な西洋菓子の製造を始めました。さて、勇貫堂さんの額「終始一貫」には、「昭和庚午」すなわち昭和5年の日付が記されています。この頃、太一郎氏は社長として、昭和恐慌を乗り越えるために自ら全国を奔走していた、まさにその時期でした。多忙を極める太一郎氏が訪れたであろう昭和5年の舞鶴は、どのような姿だったのでしょうか。この機会に「昭和100年」を迎える今年、昭和初期の舞鶴の様子を探ってみませんか。